

わたしの知らないはたらくひとたち

豊川小・1 しもとり あい

わたしがよんだ本は、「よるのあいだに」という本です。なぜ、この本にしたかというのと、じぶんがねているよるのあいだに、なにがおこるのが気になったからです。

この本では、「わたし」がパジャマにきがえるころ、おかあさんは、しごとに出かけていきます。「わたし」がねているあいだも、大きなビル、よるのみち、せんろの上などで、たくさんの人がはたらくしています。「わたし」があさごはんをたべているとき、おかあさんは、いえにかえってきてねむりについていきます。

わたしは、まずよるにこうじをしていることにおどろきました。こうじはひるましかやっていないとおもっていたからです。わたしだったら、よるはたらくのは、くらくてちよつとこわいなとおもいました。でも、わたしがしょうらいになりたいしよくぎょうは、アイドルやアイスクーキやさんです。アイドルはよるにライブをしたり、クーキやさんはよるにクーキをつくったりするかもしれません。だから、わたしもおとなになったらがんばってはたらきたいなとおもいました。

ほかに、この本には、けいさつかんやテレビでニュースをつたえる人、びょういんの人などが出てきます。こんなにたくさんの人が、よるはたらくしているとおもっていませんでした。ビルのかんりなど知らないしごともありました。よるにはたらくしている人がた

くさんいるから、みんなが生かつできるのだとおもいました。

わたしのおうさんは、ひるまはたらくしているけれど、あさ早くから、よるまでがんばっています。おかあさんはいえでそうじやせんたくなどのかじをがんばっています。だから、ひるのしごともあるのしごとどちらも大せつだなとおもいました。おうさんとおかあさんに「いつもおしごとがんばってくれてありがとう。」というとおもいました。そしてよの中のはたらくしている人にも、ありがとうとおもいました。